

令和7年度学校経営方針

1 学校教育目標

「あい」ある学び舎の創造～自律・尊重・感謝～

(令和4年制定)

2 めざす生徒像

三中スローガン **「日々挑戦!! 共に伸びゆく三中生」**

(平成2年制定)

(1) **しなやかな生徒**

(認め合う生徒)

明 朗

柔軟な考え、レジリエンス、他者理解 (認め・許す)、相談、相互

(2) **たくましい生徒**

(磨き合う生徒)

気 力

心身の健康、目標・夢実現に向けた努力、自分らしさの追求
困難から逃げない心の強さ

(3) **品格のある生徒**

(高め合う生徒)

荘 厳

ありがとう、礼儀、正しい判断、清掃・給食・ボランティア、
出合いを大切にする気持ち、貢献

※「明朗」「気力」「荘厳」は校章に示された象徴

3 めざす学校像

ワクワクする学校

(1) 生徒にとって、明日を楽しみに通える学校

⇒ 明確な目標・仲間と協働・成長の実感

(2) 教師にとって、同僚性があり、夢と理想を語り合い、働きがいのある学校

⇒ お互い様・お陰様、役割を超えて (のりしろ)、
積極的な真面目な雑談

(3) 保護者・家族・地域にとって安心感があり、子どもが学ぶことを誇りに思う学校

⇒ 応援のしがいのある学校

4 めざす教師像

生徒理解に努め心に寄り添う教育を実践する教師

(1) 力量を高め、授業改善を進める教師

指導と評価の一体化、教科横断的な視点で「主体的に学ぶ意欲」を高める

教科学習 ⇒ 主体的な学び 特別の教科 道徳 ⇒ 考え、議論する道徳

特別活動 ⇒ 人間関係形成 総合的な学習の時間 ⇒ 探究技能の習得

(2) 研修に努め、子ども・保護者・地域・同僚から信頼される教師

キャリアステージに応じた研修、学区小学校との連携 (小中一貫)

明朗、情熱、丁寧な説明・対応、不祥事のない学校

(3) メリハリをつけ働き方改革を推進する教師

優先順位、心身の健康に留意した声の掛け合い

5 地域との連携

地域の資源を有効に活用する

- ・ 三コミ活動 (小学生が憧れ、在校生が誇りをもち、卒業生が愛着を持つ活動)
- ・ マコモ植栽ボランティア等「白鳥を愛する会」との共同活動
- ・ 自治会長等との自治会について語る「未来を語る会」
- ・ 健全育成推進委員会との連携
- ・ 地域防災への積極的参加

6 経営の方針

三中学区小中一貫教育目標達成に向けた経営

自分と仲間を大事にする三中学区の人づくり ～「かかわり」と「自律」～

- (1) 学習指導要領や教育委員会等の方針や重点をふまえ、「新しい時代に対応した生きる力」の理念に基づいた経営を進める。
- (2) 「自立し社会に貢献できる大人になる基礎を築く大切な時期」を担う教育を推進する。
- (3) 「つながりと信頼」を大切にし、学校・家庭・地域が連携する学校運営を推進する。
- (4) 教育課程を工夫し、メリハリがあり充実した学校教育活動になるように努める。
- (5) 特別支援教育の推進を図ると共に、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に努める。
- (6) 多くの人と交流する事で、生徒の可能性を広げ、他者理解を深める。
- (7) 安定した学級経営を基盤にし、3支援部体制による知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指す。
- (8) 教職員は「チーム酒田三中」として力を合わせ明るい職場づくりに努めるとともに、効果的・効率的な教育課程の工夫や組織としての引き継ぎを大事にし、働き方改革を推進する。
- (9) 保護者や地域、関係機関等と連携し、安全・安心・安定した、地域と共にある、特色ある学校づくりに努めると共に、生徒、家庭・地域、同僚に「優しい三中」を意識した学校経営を行う。

7 経営の重点

学習指導と生徒指導の一体化による居場所づくりと、絆づくりの支援

授業に内在化した生徒指導 「指導と評価の一体化」「教科横断的な視点」

授業で知識・技能や思考力・判断力・表現力等を育て学力を高めるだけでなく、生徒が主体的に個性を伸ばし社会性を身につけるように働きかける生徒指導の視点を意識して組み込んでいく。

授業で生徒指導実践上の次の視点を意識する。

- 
- (1) **自己存在感の感受**: 一人ひとりの生徒をかけがえない存在と捉え、個性や独自性を大切にする
 - (2) **共感的な人間関係の育成**: 自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる協力的な人間関係を学級の内外に築く
 - (3) **自己決定の場の提供**: 自ら考え、選択し、決定し、行動する(発表・制作など)経験が得られる機会を意図的に設定する
 - (4) **安全・安心な風土の醸成**: お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送ることができる風土をつくる

「個性の伸長・社会性の獲得」につなげる 社会で充実して生きる(well-being)へ

- (1) 教 務 部 生徒とじっくり向き合う教育課程の編成
- (2) 学校研究 テーマごとの授業改善と「総合的な学習の時間」における個人探究
- (3) 学習支援 学習『聴考伝』 学習習慣の形成(マイスケ、マイノートの活用)
- (4) 生徒支援 話し合い活動の充実 班会・班長会の充実、異学年との交流
- (5) 健康支援 生活時間の自己管理 清掃・給食活動の見直し、睡眠時間確保のリズム
- (6) 学年経営 新たな不登校を生まない集団づくり いじめ未然防止と早期発見・早期対応
- (7) そ の 他
 - ・部活動「地域移行」の試行 ・働き方改革のさらなる推進 ・校内倫理委員会の運用
 - ・学校安全計画の見直しと改善(非常時対応、交通安全ヘルメット着用等)

令和7年度の重点的な取り組み

1 現学習指導要領「完成年度」（5年目）にあたり、目指す授業の姿（主体的・対話的で深い学び）へ協働で取り組む。

○生徒の学びはどう進化したのか？を問い直す。

「指導と評価の一体化」指導に活かす学習評価の教科内共通実践。

単元（題材）毎に評価計画を生徒に示した上で多様な評価場面を設定し、把握した個々の状況に応じた手立てを講じ、次の指導に活かす。

○3つの力（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等）をバランスよく育てているか？を問い直す。

授業との連動、個々の興味関心に応じた学び等、主体的な家庭学習となるように「マイスケ」「マイノート」等を活用し、生徒の自覚を促す取り組みを行う。

○「単元配列表」をもとに本校に必要な教育内容等を組み立てていく。

教科の系統性や他教科とのつながり、他学年とのつながりを意識し、学習内容と関連づけて指導できるように教科等横断的な視点で組み立てていく。

2 特別な支援を要する生徒（不登校、不応適も）支援を充実させる。

○個別の特性や学習状況、出欠状況をもとに通常学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒を把握し、必要に応じて「個別の指導（支援）計画」を作成・活用を図り、個別の支援を充実させる。

○「特別支援委員会」を機能させ、研修の充実を図り、特性の理解・特別支援教育に関する基礎的な知識や対応方法等を全職員が身に付け、全校で支援体制を進める。

○小学校との更なる連携を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援を継続して行えるようにする。

3 「生徒主体」の三中を保護者・地域と共に進める。

○全学年クラス替えとなり、新たな教育課程に取り組む。

春の体育祭（INPEX 酒田アリーナ）、秋の修学旅行等、新たな取り組みについて、生徒・保護者の理解を得ながら進める。

○教職員の心身の健康保持、ワークライフバランスの実現に取り組む。

業務負担の平準化、スリム化を図り、生き生きと働ける職場環境づくりを進める。

個々のワークライフバランス実現のために、計画的な年休取得、定時退勤日（月2回）の完全退勤、勤務時間内の部活動終了の検討等、県働き方改革プランⅡ期目標※達成を目指す。

※半期月平均 80h 超ゼロ 年間月平均 45h 超ゼロ

○「二三六スポーツ文化クラブ（仮称）」の秋からの試行で部活動改革を更に進める。

クラブ員（生徒）を第一にした運営となるように、設立準備委員会と連携して進める。

また、各協会・連盟主催大会への参加の在り方についても三校合同で検討する。

○コミセンと「学校安全計画の見直しと改善（非常時対応）」マニュアル見直しを進める。

昨年の大雨災害対応を教訓に、本校が避難所となった場合の対応をより具体的に検討する。